

厚生労働科学研究委託費（医療機器開発推進研究事業）
委託業務成果報告（業務項目）

血清フォン・ヴィレブランド因子活性と心房細動重症化に関する研究

担当責任者 和田 揚 国立循環器病研究センター心臓血管内科・不整脈科医師

心房細動に対するアブレーションの有効性は確立しているが、20-30%と高い再発率が問題である。アブレーション後の再発予測因子として、左心房拡大や、長期間持続した心房細動が知られているが、生化学マーカーで再発を予測できるものは確立されていない。

本研究では、心房細動アブレーションの術前に各種生化学マーカーを採取し、術後の再発との関連性を検討した結果、血清フォン・ヴィレブランド因子活性が再発と関連していた。

血清フォン・ヴィレブランド因子は心房細動再発と関連することは、心原性脳塞栓症の重症化を予測できる可能性があり長時間腕時計型モニタリング機器による心房細動発生と組み合わせることにより、より重症化しやすい心房細動例を検知できる有用である可能性が考えられた。

A．研究目的

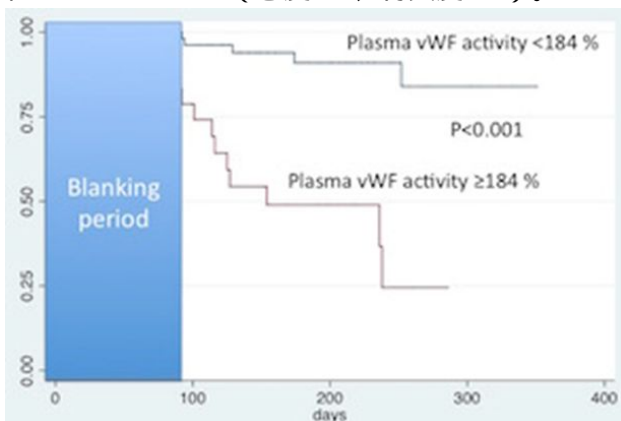
心房細動アブレーション後の新規再発予測因子の探索。

B．研究方法

国立循環器病研究センターで心房細動に対してアブレーションを施行した76症例を対象に、術後再発と関連する生化学マーカーを同定する。

C．研究結果

ROC解析の結果、血清フォン・ヴィレブランド因子活性（%）が、平均観察期間182日における術後再発の有意な予測因子であった（AUC 0.81）。カットオフ値は184%であった（感度72%、特異度81%）。



D．考察

フォン・ヴィレブランド因子は血管内皮障害のマーカーであり、虚血性脳卒中の予測因子として注目されている。血清フォン・ヴィレブランド因子活性は心房細動アブレーション後の脳卒中発症リスクの指標となる可能性がある。

E．結論

血清フォン・ヴィレブランド因子活性は心房細動アブレーション後の再発と関連した。血清フォン・ヴィレブランド因子は心房細動再発と関連することは、心原性脳塞栓症の重症化を予測できる可能性があり長時間腕時計型モニタリング機器による心房細動発生と組み合わせることにより、より重症化しやすい心房細動例を検知できる有用である可能性が考えられた。

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H．知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし